

鹿児島港

鹿児島県土木部港湾空港課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

☎099-286-2111(代)

URL : <http://www.pref.kagoshima.jp/infra/port/index.html>



1. 概況

鹿児島港は、広大な静穏水域や変化に富んだ海岸線を有する錦江湾に囲まれ、眼前には雄大な桜島がそびえ立つとともに、国の重要文化財に指定されている旧港施設が残されているなど、自然景観や歴史、文化に恵まれた港湾である。

また、大隅半島や離島など県内を結ぶ人流・物流の拠点や、多くのクルーズ船が寄港する国内外の交流拠点として重要な役割を果たしており、平成30年の船舶乗降人員数は626万人(全国第2位)、自動車航走車両台数は205万台(全国第1位)、令和元年のクルーズ船寄港回数は106回(全国第8位)となっている。

港湾区域は、南北約20kmにもおよび、北から本港区、新港区、鴨池港区、中央港区(マリンポートかごしま、旧木材港区)、谷山一区、谷山二区、浜平川港区の7港区に分かれており、それぞれの港区ごとに機能分担が図られている。

〈各港区の機能分担〉

(本港区)

本港区は、鹿児島港発祥の地であり、桜島を結ぶ航路や、種子島・屋久島、三島・十島、奄美大島・喜界島への離島航路が利用している。

また、緑地で様々なイベントが開催されるほか、北ふ頭に6万トン級までの国際クルーズ船が寄港した際には、クルーズ船観光客が歩いて回遊するなど、県民や観光客が楽しみ憩えるウォーターフロント空間として親しまれている。

(新港区)

新港区は、奄美・沖縄航路や種子島航路の定期航路や不定期航路が利用している。

新港区においては、奄美・沖縄航路の拠点機能の強化を図るため、耐震強化岸壁、旅客ターミナルやボーディングブリッジの整備など、防災機能の強化や旅客と荷役の分離、老朽化対策を進め、令和2年6月に完成したところである。これらの整備により、旅客の安全性・利便性や荷役作業の効率性が向上し、奄美群島の観光や産業の振興に大きく寄与することが期待される。

(鴨池港区)

鴨池港区は、大隅半島を結ぶ航路が利用している。

鴨池港区から南の中央港区间については、鹿児島港の臨海部を南北に結ぶ臨港道路が唯一未整備の区間であり、港湾物

流の円滑化だけでなく、臨海部やクルーズ船寄港時の渋滞緩和を図るため、平成29年度から臨港道路「鴨池中央港区線」の整備を進めている。

(中央港区[マリンポートかごしま])

マリンポートかごしまは、大型観光ふ頭とあわせて、県民や観光客が憩い、海と触れあえる緑地空間として整備を進めてきたところであり、平成28年には緑地など全面の供用を開始した。現在、100回を超えるクルーズ船の寄港があり、また、令和元年には、平成19年の供用開始以来の来園者数が1千万人を超えるなど、多くの県民や観光客に親しまれている。

現在、クルーズ船の大型化や予約の重複に対応するため、国やクルーズ船社と連携しながら、新たな岸壁の整備等に取り組んでいる。

(中央港区[旧木材港区])

旧木材港区は、遊休化している水面貯木場などの有効活用を図るため、令和元年度から埋立を進めている。

(谷山一区)

谷山一区は、南九州を配送圏とする飼料配分基地や総合卸団地などを有する臨海工業用地(2号用地)に隣接しており、飼料原料の米穀類の専用船、セメント船、車両輸送船等が利用している。

また、平成26年からは台湾航路が就航している。

(谷山二区)

谷山二区は、鹿児島港における最大の臨海工業用地(1号用地)に隣接し、LNGや重油等を取り扱う南九州のエネルギー供給基地として、また、県内の自動車の集積・配送拠点としての役割を有しており、石油製品、完成自動車、砂利・砂等の貨物を取り扱っている。

(浜平川港区)

浜平川港区は、鹿児島港の最南端に位置し、ヨットやプレジャーボート、漁船が利用している。

昭和47年の太陽国体では、ヨット競技の会場として利用されたところである。